

真心と全き信仰
(ヘブル人への手紙 10:19～25)

2016年 7月 24日 聖樂教会 主日礼拝 説教録取

説教：監督 ^{キムソンヒョン}金聖顯牧師

神は

まことに悔い改める者を切に求められる

イエス・キリストはこの世に来て、

愛多き

神の御心と品性を直接、見せられたが、

のちには罪を刑罰するために恐ろしい

公義の裁き主として再び来られる(ヨハネ 5:22、27)

すでに悔い改めた者は

キリストに属した者であるために、

二度と古い人の行いや品性に

戻ってはいけないし、(エペソ 4:22～24、コロサイ 3:8～10)

罪の赦しを受けた者として真心と全き信仰を

持続していかなければならない(ヘブル 10:22)

私たち、教会は

命を捨てて仕えられた、

主の血の実であるし、(使 20:28)

私たちに預けて顧みさせた

栄光の相続財産であるために、(エペソ 1:18～23)

豊かな愛をもって仕えなければならない

そのようにしてこそ、

私たちは霊的な実を結ぶことができるし、

天国を準備することができるし、

主の大きな恵みを受けることができる

◎神は

私たちがその方の品性に似ることを願われるので、

古い人の品性を捨てよう

◎教会に仕えるという本分は

神の子となった私たちに与えられた

相続財産であるということを覚えよう

◎悔い改めと感謝を休まないようにしよう

※悔い改めの心、すなわち

真心と全き信仰によって

信仰生活をしよう

神の働きを難しくするものは偽りの品性

神は真実な方でおられます。一度、語ったことはどのような代価を払ったとしても必ず成就されます。人々は状況によって言葉を変えたり自分の益のために他の人をだましたりしますが、神にはそのような姿がありません。真実さは神の品性ですし、天の御国の行動原則です。天の御国は真実でおられる神と調和をなすことができる者、すなわち神の品性に似た者だけがとどまることができます。

今、私たちが生きているこの世は偽りに満ちています。この世で生きる間、私たちは危機を免れるために、あるいは目先の益を得るために自然と他の人をだまします。幼いときからそのようなことを繰り返してきたために今はそのようなことがほとんど習慣となっています。このように正直でない習慣は周りの人々に不利益や傷を与え、彼らが享受すべき幸せを奪います。また、それだけでなく、偽りの品性は神の御心を傷つけ、神の働きに大きな困難をもたらします。

このような偽りの品性は一体、どこから来たのでしょうか？ それは悪魔からです。イエスがパリサイ人から偽りの品性を発見したときに、「あなたがたは、あなたがたの父である悪魔から出た者であって、あなたがたの父の欲望を成し遂げたいと願っているのです。悪魔は初めから人殺しであり、真理に立つてはいません。彼のうちには真理がないからです。彼が偽りを言うときは、自分にふさわしい話し方をしているのです。なぜなら彼は偽り者であり、また偽りの父であるからです。」(ヨハネ 8:44)といわれました。使徒パウロも神の働きを妨害する呪法師を指して「ああ、あらゆる偽りとよこしまに満ちた者、悪魔の子、すべての正義の敵。」(使 13:10)といいました。人間は偽りの根源である悪魔の惑わしに陥って神に逆らい、悪魔の子となりました。

キリスト者はイエス・キリストによって罪の贖いを受けたために公的には罪人ではありません。しかし、不幸にも体質的には罪の習性をそのままもっています。キリスト者となったのちにも続けて神の御言葉を疑い、偽りの姿勢で人々に接します。また、これによって教会は救霊と養育の使命を担うときに多くの苦しみを受けます。罪人の習性を捨てることのできない教会員によって傷ついた人々は教会を離れるようになりますし、教会は信頼を失うようになります。私たちはすでに習慣となってしまった罪の品性をそれ以上、当然なことと考えないで、改めていかなければなりません。キリスト者が古い習性を捨てて真心と全き信仰をもつときに教会は成長します。

福音を伝える者の心は真実でなければならない

ヘブル人への手紙 10 章 22 節にある「真心と全き信仰」は「完全な信仰の中にある真実な心」と解釈するのが正確です。神の約束を守ろうとする私たちの心は真実でなければなりません。私たちが真実な心をもたないのであれば、どんなに大きな声で「イエスは私たちの代わりに死なれました。」といったとしても、人々はその言葉を容易に信じようとしません。

神は私たちに罪をやさしく受け入れるという品性があるということを知っておられます。しかし、神は私たちがそのような古い人の品性から脱け出すことを願っておられます。詩篇は信仰人の正しい姿を知らせる本ですが、その最初に「幸いなことよ。悪者のはかりごとには歩まず、罪人の道に立たず、あざける者の座に着かなかつた、その人。」といいました。本来、罪人であった私たちを赦してくださった主は私たちがこれ以上、罪に陥らないことを願っておられます。主は私たちが恵みに感謝し、自分を聖い生きた供え物としてささげることがを願っておられます。恵みを受けた者が担わなければならないことが多くあり

ますが、その中で最も重要なのは福音伝道です。福音伝道において伝える者の心は非常に重要です。心は福音を運搬する器のようなものです。もしその器が真実でないのであれば、人々は結局、福音自体を信頼しなくなります。

神の恵みを受けた私たちの心は真実に変えられなければなりません。そのような人が神の愛と真実を伝えることができますし、この世で抑圧と痛みを受けた者を救い出すことができます。教会の門をようやく叩いた者が変わることができなかったキリスト者の習性に失望して、再びこの世に戻って行くことがあってはいけません。それゆえ、キリスト者は主の心をもって主の行動を見習わなければなりません。人々に愛を施してみると、傷を受けることもあります。しかし、天国の生涯を準備するためにはそのような痛みにも耐えなければなりません。自分の義を現したり、すぐに怒ったりしないで、恐れる心によって天国を準備しなければなりません。

神の品性に似るように訓練しよう

パウロは「あなたがたは異邦人のように行ってはいけません。あなたがたはキリストをこのようには学びませんでした。本当にあなたがたがキリストにあって教えられているのであれば、古い人を脱ぎ捨てて、新しい人を身に着なさい。」と強調されました(エペソ 4:17~24)。私たちの靈魂を救うことは主が成就してくださいましたが、救いを受けた私たちの心霊が変えられることは自分が努力して成就しなければなりません。

真心と全き信仰をもたなければなりません。もう一度言うと、完全な信仰の中に真実な心をもたなければなりません。主の犠牲によって完全な信仰をもつようになったために、これからは主の品性を見習って、真実な心をもたなければなりません。救いを受け、完全な信仰を得たために、これからは神と交わりながらその方の品性に似ていかなければなりません。イエス・キリストの名によってバプテスマを受けた者は変えられなければなりません。バプテスマの意味は正しい良心が神を探し求めるところにあります。バプテスマを受けた者は神の召しに応じてその心と考えが神に向かって走っていかなければなりません。

神の恵みと愛に対する感動を失わないで、毎日、悔い改めながら訓練しましょう。真心と全き信仰によって神を感動させましょう。そのようにしてこそ祈りの応答も受けることができます。神は肉体の要求を退けて神の品性に似るように努力する者とともにされます。私たちはこれ以上、自分のものではなく、主のものです。完全な信仰の中にある真実な心によって神に出て行きましょう。